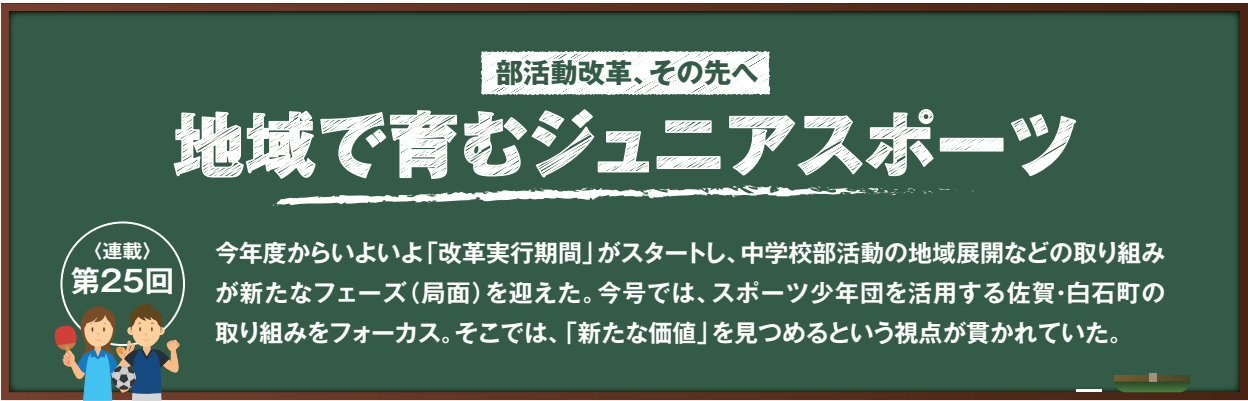




「佐賀・白石町発」新たな価値」に注目し 今ス。ポーツそのものの変化を実感

地域展開で加速する
多様目、多世代、多志向

日本有数の干潟を持つ有明海に面し、佐賀平野に位置する白石町は、3つの町が合併し、およそ20年を迎える。人口約2万1000人、この地もまた少子高齢化が加速するなか、2024年、3つの中学校が統合、町立白石中学校となり現在に至る。それでも、「かねてより運動が盛んな町です」、そう語るのは同町教育長の下平博明氏である。

「『スポーツ・健康増進のまち』を



「スポーツそのものの変化を実感する」と語る下平博明氏

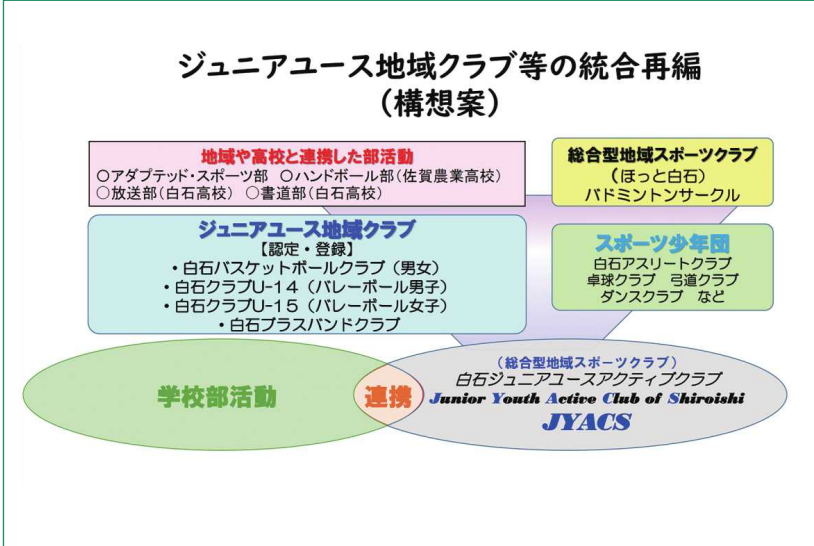


堤王宏氏は早くから地域スポーツの新しい価値を重視し、地域展開でもそれを徹底する

■図表1:白石町の部活動・地域クラブ



■図表2:ジュニアユース地域クラブなどの統合再編（構想案）



地域展開を包括的にカバーする総合型地域スポーツクラブ『白石ジュニアユースアクティブクラブ（JYACS）』を創設。

さらに、学校部活動として、多様な生徒が参加できるアダプテッドスポーツ部を新設。また、町内にある二つの県立高校とも連携し、ハンドボール部や文化部が活動。地域展開をきっかけに、多様目、多世代、多志向、いろいろなスポーツシーンが生まれています」

なぜ、そうしたことが可能に？

そんな疑問に応じたのは、白石町部活動検討委員会委員長の堤王宏氏だ。

地域クラブ間連携も見据え
スポ少の理念を将来像に

「地域展開が報道され始めたのは、22年のころだったでしょうか。一方、白石町はその2年後に中学校統合を迎えることが決まってお

り、まさに、絶好のタイミングでした。この機会を逃してはいけないと、陸上競技を中心に2年間で一気に進めてきた格好です」

すでに、少子化によって部活動

合同化の必要に迫られていた。

「当時、3つの中学校の生徒数は、約2500人、約2000人、80〜90人で、1000人を切る中学校では、サッカーやソフトテニス、バレーボールなどの部員不足が切実な状況となり、そこで23年から拠点校制を敷き、活動していま

した」（下平）

これによって、各校の顧問、そして保護者間でも結束が強まり、その基盤があったことで地域展開の動きが、一気に加速する。

「検討委員会も、そもそもは統合後の中学校の部活動をどういう形でスタートさせるか議論する目的での立ち上げでしたが、すぐに地域展開の話し合いの場へと



白石アスリートクラブでの新たな活動を楽しむ子どもたち

地域展開で活動時間減 →成績落ちる？

「白石アスリートクラブでは2025年、全日本中学校陸上競技選手権大会でリレーおよび走幅跳に出場。100mを11秒台で走る選手も5人おり、県中学校総合体育大会では2年連続で男子が総合優勝を果たすなど好成績を残しています。バレーボールでは小学校の県優勝チームが今春、白石中学校に入ってきましたが、地域展開で小中一貫した指導ができるのは強みです」（下平）

「今まで顧問の導き方や異動などが競技力向上に影響しましたが、複数の指導者で支える地域クラブでは多くの意見が統合され、中長期的視点に立ち、風通しもよくなる。それによって短い練習時間でもパフォーマンスは高まります」（堤）